



# かけはし



水田に水が引かれるこの時期、九十九島の面影を見せる象潟 (撮影／佐藤正人)

雪形のややに崩れて鳥海の

山はあらはに季<sup>とき</sup>移りゆく

賀祥山 禅林寺 第四十世 山<sup>やま</sup>中<sup>なか</sup>律<sup>りつ</sup>雄<sup>ゆう</sup>

いにしえの象潟は、波静かな潟に島々が浮かぶ見事な景勝地として松島と並び称されていました。古くは、能因や西行が歌に詠み、松尾芭蕉は、西行の五百年忌にあたる年に象潟を目的地のひとつとして「おくのほそ道」に旅立ちました。

「おくのほそ道」発表後、象潟の知名度はさらに上がり、多くの文人墨客が訪れるようになり、与謝蕪村、小林一茶、正岡子規などが象潟を旅しています。

海岸線から程ない距離に二〇〇〇段級の山をもつ地形は、国内でも珍しく、鳥海山はもちろんのこと、元滝や獅子ヶ鼻湿原、日本の夕陽百選の象潟海岸など見所がたくさんあります。

また、木版画家の池田修三氏の出身地であり、象潟郷土資料館では「池田修三没後10年作品展」が開催中です。

象潟には、この他にもたくさんの魅力があります。是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。





## この人に聞く

第7回

曹洞宗 皇宮山 蛸満寺 第40世  
熊谷 右忍 氏 (51歳)  
(にかほ市象潟町)

蛸満寺は、仁寿3年(853年)に慈覚大師によつて創建された古刹であり、九十九島の風景鑑賞の地とされていました。文禄元年(1592年)直翁呈機を開祖とし、曹洞宗に改めました。小学校の遠足で、誰でも一度は訪れたことがあるこのお寺を訪ねてみました。

——先日、こちらの檀家さんであり、ボランティアで観光案内をされている竹内 賢さんから案内をしていただきました。一緒にいた秋田市の方が懐かしそうに「蛸満寺の七不思議」のことを話されていました。私の記憶には残っていませんでしたが、興味深くお話を聞かせていただきました。

かつては、遠くは秋田市のほか、海岸線沿いの小学校から遠足がありました。秋田市では高学年が対象でしたので、記憶もすっかりしていたのでしょうか。秋田市の方々が、よく覚えてくださっていますね。20年ほど前から、遠足のコースは「白瀬南極探検隊記念館」や「フェライト子ども科学館」に移ってしまいました。観光客として「おくのほそ道」の足跡をたどる方がよく来られます。松尾芭蕉は、人気の流行すたりが無く、一定のファン層があります。「おくのほそ道」を片手に一句ひねっている方もお見受けします。

——実は元滝や獅子ヶ鼻湿原などは、最近になって知ったのですが、象潟には魅力的な所がたくさんありますね。

海岸線からすぐそこに2000m級の山があるのは、日本国内でも珍しいと思います。よく檀家さんを連れて本山に行きますが、その後の観光で困ることがあります。山に連れて行っても海に連れて行っても感動がないんですよ。「これなば、うち(象潟)の方がき

れいだな」って。

——観光資源が豊富ですね。ところで、木版画家の池田修三氏はこちらの檀家さんですね。現在、象潟郷土資料館で「没後10年作品展」が開催されています。

池田修三さんの版画は町の皆さんが日常的に新築祝い等でいただいておりますので、玄関や居間に飾っている家庭が多くあります。よその人に「これだけ素晴らしいものがある」と言われて、今、初めて気が付いて、あわてて顕彰しているようなものです。地元にあつて当たり前と思つてしまい、その価値を見いだせていないのかもしれない。素晴らしいものは、どこか遠くにあると思いがちですね。「自分探しの旅」をしている青年が立ち寄ることがありますが、「地球の裏側まで行ったとしてもあなたは見つかりませんよ。だって、あなたは、今ここにいるのですから」と諭します。人とぶつかつてみて、初めて分かる。一人でじたばたしても空を切るだけで、何もつかめないことと一緒です。

「地元にあつて当たり前と思つてしまい

その価値を見いだせていないのかもしれない」



——文化元年（1804年）の象潟地震で、潟が4メートルほど隆起し、陸地になったそうですが想像を絶する出来事だったのでしょうかね。

本荘から鶴岡にかけて被害があったようです。復興のためには、想像も及ばないようないろいろな苦労があったことでしょう。

このたびの東日本大震災では、知り合いの宮城や岩手のお寺も被災しました。また、気仙沼のお寺では、何十人という人の避難場所として開放したそうです。お寺には、そういう役目もあることを認識しました。災害があつて、お寺の建物が無事であれば使っていたきたいですね。

また、家族を亡くされた方は、葬儀も手つかずだったそうです。そこまで気が回らないということもあるでしょうし、どこかで生きているという思いも捨てきれなかったのでしょうか。これは、震災に限ったことではありませんが、家族を亡くした時の悲しみというのは、当人にとっては初めてのことです。それぞれの置かれた状況に応じて、お寺と檀家さんが相談して営むということが大事だと思います。乗り越えるには時間がかかるでしょうし、いろいろな方の助けも必要となります。

最近、家族葬として、お葬式を大きくしない風潮がありますが、その方が亡くなつて

## 「悲しみを多くの人と共有する機会を持つことも 家族の努めであるように思います」

悲しんでいるのは家族以外にもいるわけです。何十年も生きていれば、その地域の方々との縁もあります。お葬式というのは、亡くなった方を弔いご供養するものでありますが、その方に縁した方々がお互いに悲しみを共有して新たな人間関係を構築し、新たな縁を結ぶ機会でもあるわけです。悲しみを多くの人と共有する機会を持つことも家族の努めであるように思います。しかし、家それぞれに都合はあるわけですから、必ずそうしなさいとは申し上げません。

——あるご遺族から、「葬儀に参列された方から『あなたのお父さんはこんな方でしたよ』と自分の知らないお父さんの話を聞くことができ感動しました」と聞いたことがあります。

それが一番だと思います。お葬式とは、このように亡くなったからこのようにお葬式するということではなく、このように生きてきたからこういうお葬式になるというものです。集まった人達によって、こんなお父さんだっ

たという像が出来上がる。70年、80年、生きてきた証を持つて仏様へと変わっていく過程がお葬式であると思います。

——新緑の中、素敵なお話をいただきありがとうございました。



にかほ市  
象潟町象潟島2  
☎0184-4313153

象潟駅から徒歩15分・大人300円



### 第3回

## 終活セミナー 開催

昨年、12月オープンいたしました「虹のホールしらゆき」（にかほ市三森）において、第3回終活セミナーを4月26日(日)開催いたしました。今回は、にかほ市民を対象とし、講演のテーマは「おもしろ税ミナール よくわかる！改正相続税」「エンディングノートの書き方講座」「お茶の美味しい淹れ方講座」の3つです。



はじめに「おもしろ税ミナール よくわかる！改正相続税」では、講師の佐藤良一税理士事務所所長の佐藤良一氏より、今年1月より改正された改正相続税について、実例をまじえ、分かりやすく説明していただきました。相続税の基礎控除が引き下げられたため、これまで以上に相続税の課税対象者は増えるとのこと。財産をお持ちの方は、事前に対策を講じておく必要がありますね。相続税がかからない場合であっても、かえって財産の少ない方が相続でもめることが多いのだそうです。そうならないためには、遺言書の作成が有効だそうです。



また、相続税対策として、J A 共済などの生命保険がよいとのことでした。

続いて「エンディングノートの書き方講座」では、ジェイエイゆり



ノートとは、自分の思いを家族に伝えるために書くもので、人生を振り返るばかりでなく、これからの人生の夢を綴ることも重要であることをお話しました。

最後に「お茶の美味しい淹れ方講座」では、講師のハラダ製茶株式会社の中村純氏・中村寿宏氏より実演、講習していただきました。水出し茶や急須での淹れ方、まると食べる

お茶などを紹介していただき、日本茶の効能について知ることができました。



葬祭センター長 佐藤正人が、書き方説明を行いました。エンディング



参加者からは、「相続と相続税、基礎控除について分かりやすく知ることができました」

「エンディングノートは、まだ自分では早いと思いつつも、いざという時慌てないために書きとどめておくことで家族にとって役立てればと思います」

「この歳になって、お茶の淹れ方をはじめてわかりました。明日から美味しいお茶が淹れられるのでうれしいです」

などなど、参加して良かったとの感想をいただきました。



## 知っておきたい 基礎知識 その6

### 「家族葬について」



「家族葬」という言葉が登場して久しくなりますが、いまだその定義はあいまいです。日本消費者協会が行っている「葬儀についてのアンケート調査」で、「家族葬」のイメージをたずねたところ、「近い身内だけで行う葬儀」「静かに故人を送る葬儀」「小規模な葬儀」「簡素・質素な葬儀」「費用がかからない葬儀」と人によって受け止め方が違うようです。

これまでも「密葬」という、「本葬」の前に近親者で行う葬儀がありました。それをあえて「家族葬」としたのは、日本人の4人に1人

が高齢者という高齢化社会に突入し、核家族化・共助意識の減退・終身雇用制度の崩壊により、「血縁・地縁・社縁関係の希薄化」が進んだことにあります。その結果、近親者主体で執り行う葬儀の形態のことを「家族葬」と呼ぶようになりました。

また、社会的要因のほかに意識・価値観の変化が見られます。日本は元来、集団思考・横並び意識など画一的な価値観をよしとする社会でしたが、バブル崩壊や東日本大震災などによる経済不況や自然災害を経て、日本人の価値観が大きく様変わりし、多様な価値観を受け入れられる社会に変容しました。

こうした価値観や消費者意識の多様化が、葬儀観にも影響を与えるようになりました。これまで通りの一般的な葬儀を主流としながらも、「個性化」と「簡略化」の潮流が生まれ、「個性化」としては、故人らしさに重点を置き、写真映

像や生花をふんだんに使った祭壇などがあります。一方、経済的な事情による「簡略化」の要望も多くなりました。極端なケースでは「直葬<sup>ちんそう</sup>」という、出棺のお経のみで、火葬して終了というケースが、この地域でも見られるようになりました。

最後に「家族葬」での葬儀をご希望されている方へのアドバイスです。近親者のみで行う葬儀の場合、接待に時間が割かれず、故人とのお別れに時間をとることができます。また、20人くらいの人数であれば、ホールの和室を利用した葬儀が、自宅で執り行う葬儀に比べ、安価で利便性に優れています。いいこと尽くめに思われる「家族葬」ですが、注意すべきこともあります。「本当に近親者のみの葬儀でよいのか」ということです。地縁の繋がりが薄くなったとはいえ、この地域で生活していれば、少なからず誰かのお世話になっていると思われる。また、会葬者

側からも形式的ではなく、「お世話になったので弔いをしたかった」「どうして教えてくれなかったのか」と葬儀後、続々と会葬者が訪問され、対応に苦慮したという話も聞きます。故人の生前の付き合い合いが広いのであれば、一般的なご葬儀を選択された方がいいと思います。

また「家族葬」で行う場合、「案内者は遺族・親族のみにするのか。親しい友人も含めるのか」「ご案内者以外の方からの生花や花環はいただくのか。辞退するのか」こうしたことを明確にし、玄関に告知しておくこと近所の方々も戸惑われずに済むと思います。

(1級葬祭ディレクター 佐藤正人)

〈参考文献〉

『月刊フューネラルビジネス』  
(総合ユニコム株式会社、2015・1)



JA葬祭 虹のホールしらゆき

にんぎょうくようさい

人形

ぬいぐるみ

# 人形供養祭

可愛がっていたお人形やぬいぐるみとのお別れを丁寧にご供養お引取りいたします。ぜひご持参ください。

とき

平成27年

6/28日

！  
金属やガラスケース  
などの不燃物はご遠  
慮願います。



●受 付／午前9時～11時 ●供養祭／午前11時30分開式

ところ

にかほ市三森字三嶽森 41-1

JA葬祭 虹のホールしらゆき



ご参加無料

どなたでもご参加できます。

ご来場記念プレゼント

ご参加いただいた方に  
粗品をプレゼント。

●当日、館内でも案内いたしますので、  
どなた様もご自由にご参加ください。



同時開催

ギフト展示コーナー

葬儀・法事  
ご相談コーナー

葬儀に関するご質問にお答えいたします。

農産物直販コーナー

軽食サービスコーナー

みどりの会  
ご入会受付コーナー

各種特典をいろいろとご用意しております。

供養祭終了後  
お楽しみ抽選会  
開催



たくさんのご来場をお待ちしております。

JA葬祭 虹のホールしらゆき  
〒018-0403 秋田県にかほ市三森字三嶽森41-1  
供養祭のお問合せは TEL 0184-62-8171



# ご案内

## 「カルチャー教室」 参加者募集

「短歌」（開催中）  
「フラワーアレンジメント」（予定）  
「パステル絵画」（予定）

新しい趣味にチャレンジしてみませんか？

充実した人生をお手伝いするため、カルチャー教室を開催いたします。

それぞれ月1回の開催とします。参加費は無料ですが、材料代は有料となります。

ご希望の方は、電話にて『ジェイエイゆり葬祭センター カルチャー教室係』までお問合せください。

希望者が少ない場合は中止する場合がございます。



## 「第4回終活セミナー」参加者募集

4回でご紹介いたしました終活セミナーをご好評につき再度、同じ内容で開催いたします。由利本荘市での開催となりますのでお近くの方は是非ご参加ください。

「おもしろ税ミナール よくわかる！改正相続税」

講師 税理士 佐藤良一 氏

「エンディングノートの書き方講座」

「お茶の美味しい淹れ方講座」



日時 平成27年7月12日(日)  
午前10時から午後2時まで

場所 由利本荘市上大野16  
由利本荘市市民交流学習センター

定員 50名

参加費 無料（お弁当をご用意いたします）

お申込み方法 『ジェイエイゆり葬祭センター 終活セミナー係』まで電話またはFAXでお申込みください。  
「お名前」「ご住所」「ご連絡先」「ご参加人数」をご確認させていただきます。

申込締切 7月10日(金)  
※ただし、定員になりしだい終了といたします。

## 「絵手紙教室」参加者募集

日時 平成27年7月18日(土)  
午後1時30分開始（2時間）

場所 にかほ市三森字三嶽森41-1  
「虹のホールしらゆき」

講師 一般社団法人 日本絵手紙協会  
佐藤 典子 氏（酒田市在住）

定員 50名

参加費 無料

※当日の教材はすべて当方でご用意いたしますが、顔彩・筆・青墨・画仙紙などがセットになった『はじめての絵手紙セット』1,500円（税込）を販売いたしますので、必要な方は申込時にお申し出ください。

お申込み方法 『ジェイエイゆり葬祭センター 絵手紙教室係』まで電話またはFAXでお申込みください。  
「お名前」「ご住所」「ご連絡先」「『はじめての絵手紙セット』必要の有無」をご確認させていただきます。

本講座はたいへん人気があります。定員になりしだいお申込みを終了しますので、早めのお申込みをおすすめします。本講座は1回のみの講座です。



# お客様の声

初めてのことでしたので、何も分らず、いろいろと教えていただき大変助かりました。ありがとうございました。みなさんから「よいお葬式でした」と声をかけていただき、故人も満足しているのではないかと思います。本当にお世話になりました。

〈A様〉

こちらの要望について親身に対応していただき好印象だった。対応も早くとても良かった。

〈M様〉

担当のSさんには大変お世話になりました。なんとか葬儀も終り、少しづつですが、元に戻ってきました。何から何まで感謝しております。ありがとうございました。

〈M様〉



## 編集 後記

「足下を掘れ、そこに泉あり」とは、ドイツの哲学者ニーチェの言葉である。つまり、理想は、どこか遠いところにあるのではなく、自分の足元にこそあるのだという意味である。また、以前、コラムに「ありがたいの反対語は何か。それは当たり前である」と書いた。

今回、象潟取材しながら「ああ。私達の地元は、なんて素晴らしいところなんだろう。恵まれている。ありがたい」という気持ちを強くした。同時に当たり前と思ってしまいう気持ちに注意しなければいけないと感じた。

当たり前と思う気持ちからは何も生まれてはこない。「ありがたい」は、自分だけでなく相手も幸せにする不思議な言葉である。

お客様からいただく「ありがとう」の言葉にさらに感謝の意を込めてお返ししたいと思います。

「ありがたいございます」。

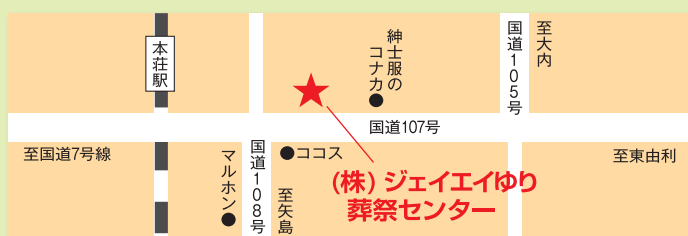
JA葬祭 みどりの会

会員募集中

入会金1万円で終身会員となり、ご家族（同居）  
どなた様でも特典をご利用いただけます。

お問い合わせ・申し込み

（株）ジェイエィゆり葬祭センター  
又はお近くのJAへ！



（株）ジェイエィゆり葬祭センター

本店／〒015-0852 由利本荘市一番堰200-1

0120-2468-08

☎ 27-1718 FAX 27-1715

メールアドレス：jayurisousai@clock.ocn.ne.jp



JA葬祭 虹のホールゆり

由利本荘市川口字八幡前41-1

☎ 23-7716 FAX 23-7717

JA葬祭 虹のホールしらゆき

にかほ市三森字三嶽森41-1

☎ 62-8171 FAX 62-8172

年中無休・24時間受付